



2016. 3. 1

3月ようちえんだより

幼保連携型認定こども園
神戸YMCAちとせ幼稚園

今年度の最後の時を迎えました。この1年間の子どもたちの成長はどのようなものだったでしょうか。年少児にとっては、初めての家庭とは異なる環境と人間関係の中で、自分自身で遊びを見つけて楽しむことが出来たでしょうか。また、他の友だちの存在も意識することが出来たでしょうか。年中児は、遊びを広げていく中で、他の友だちとぶつかって自分の気持ちを伝えるだけでなく、相手の気持ちにも気づくことが出来たでしょうか。そして、年長児はこの4月から始まる小学校の生活と学びに対して、楽しみと期待を膨らませているでしょうか。

そして、何より子育て真っ最中の保護者の皆様にとっての、この1年はどのような時だったでしょうか。子どもが育ちにくい、子どもを育てにくい時代なのかも知れませんが、子どもを含めた家族のあり方も初めて経験することばかりではなかったでしょうか。親の願う姿を見せてくれない子ども、親の言うことに素直に従わない子ども、そんな子どもを前にして、親はどうあるべきか、どうすべきかが突きつけられるのです。まさしく子育ては親育て、子育てこそ親を人間的に最も成長させてくれる機会なのです。

子どもも親にすべてを依存していた関係から、自分でしたいという気持ちも生まれてきます。そんな時に子どもはうまく出来ないから、汚すからと親が手を出しすぎると、いつまでたっても自分で出来るようにはならないでしょうし、それ以上に自分でやってみようという意欲さえ失わせてしまうこととなります。

また子どもが自分の世界を広げていく中では、親が介入できない子ども同士の世界を広げていきます。そして子ども自身が判断しても良いことと、親に相談すべきことの区別がつけられない親は、子どもの世界に介入し、大人の価値観で子ども同士の世界をすべてコントロールしようとするかも知れません。何でも親が判断して決めるのではなく、子ども自身が判断してうまくいかなかったり、親から意見されたりしてこそ、子ども自身が判断する基準を自分の中で形成していくことが出来るのですが、その機会さえ与えられずに成長していくのであれば、いつになっても自分の判断に自信を持たない人間になってしまっても不思議ではないでしょう。

子育てとは、子どもに失敗させない、悲しい思いをさせないようにと、親が先回りをするのではなく、子ども自身が自分で考えて判断して、たとえそれで失敗することがあったとしても、その経験を生かして自分自身で正しい判断が出来る人間として成長することを支えることです。人間の成長にとっては、その時にしか経験できないこと、その時にこそ経験すべきことがあります。そしてこのことは、また親にとっても当てはまるものなのです。子どもの成長には、親や保育者自身が成長しようと願う気持ちが大切であることを忘れることなく、子どもの成長に携わることの喜びと素晴らしさを感謝して、今年度を締めくくりたいと思います。

年主題 『平和』をつくる

<年主題聖句> 「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」
(マタイによる福音書5章9節)

3月主題 「なかまと心はずませて」

聖句 “義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに蒔かれるのです。”
(ヤコブの手紙3章18)